

学校だより



添川小学校

2018. 2. 07  
第 1 9 号



# しらかわ

いきいき なかよく ほこりを持って

2月4日は「立春」でした。二十四節気の最初の節で、この日から春とされます。日脚が少しずつ伸びていますが、日の入りは冬至の頃より約40分遅く、日の出は10分ほど早くなっているようです。昼間の時間が約50分ほど長くなっていることになります。しかし、「春を実感できる陽気」の到来はもう少し先。寒さ対策を怠らず、残りの3学期も元気に生活していきたいものです。

## 「感染症から身を守る」… 何よりも『予防』を大切に

置賜地域のインフルエンザの流行が警報レベルに達しています。予防を第一として、日常生活でできることを大切にしていきましょう。

### ＜インフルエンザの予防＞

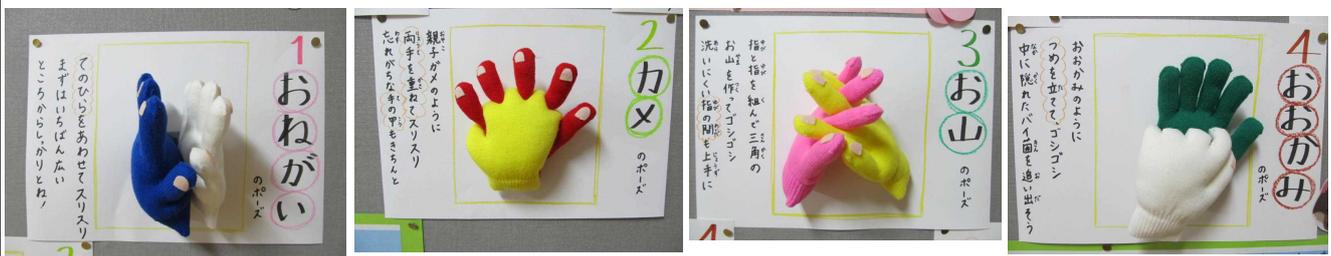


- ① こまめな手洗いを心がけましょう。
- ② マスクを着用し、咳エチケットを心がけましょう。
- ③ 適度な湿度を保つため、必要に応じて換気を行いましょう。
- ④ 特に流行期は、人混みを避けるようにしましょう。

学校では、マスク着用をすすめています。「用心に超したことはない」、子どもたちもしっかりと意識しているようです。

また、適度な湿度を確保するために、各教室やホール、廊下などに加湿器を置いています。さらに、「さわやか委員会」で中間休み・昼休みに教室等の換気呼びかけの取り組みを行っています。

こまめな手洗いについての取り組みも紹介します。『あわあわ手洗いのうた』に合わせ、以下の図の1から6の順序で手を洗います。



歌いながら楽しく、でも落ちなく手洗いができるように、という工夫です。

食事や睡眠時間にも気を配り、予防に心がけていしましょう。

今年度もPTA母親委員会に皆様を中心に“読み聞かせ”を行っていただきました。お忙しい中、時間を割いていただきありがとうございます。

子どもたちは、読み聞かせの時間が大好きです。目を輝かせ、食い入るように見つめながらお話を聞き入っていました。

読み聞かせの時間をきっかけに、子どもたちにはもっともっと本に親しんでほしいと思っています。読み聞かせに関連した、考えさせられる文章を見つけましたので紹介します。

## 読み聞かせは「愛の時間」

学校図書館アドバイザー / 県P連・親子読書推進委員

五十嵐 絹子



今、自分の子育てを思い返すと、勤めを持ちながら、心の余裕もなく、ただがみがみと子どもをせき立てる毎日でした。ある時、子どもをひどく叱りつけながらふと鏡を見ると、そこには目をつり上げた夜叉が映っているではありませんか。我ながらギョッとて、こんな母ではいけないと反省しても、また同じような日々を繰り返していました。

でも、夜寝るときの絵本の読み聞かせだけは毎日の習慣にしていました。絵本を読んで早く寝せつけ、残った仕事を片付けたい気持ちが半分、学校司書という仕事柄、絵本を「読んであげねばならない」義務感が半分というのが本音でしたが…。

それでも親子そろって布団から顔だけ出して絵本を開くと、間抜けなオオカミに笑い、はだして山を駆け下りる豆太にはらはらしたり、子ぶたの知恵に喜んだり、オオに感動したり、共に絵本の世界を楽しみ、一緒に眠りにつくのでした。いつも優しいよい母でいることは難しいけれど、絵本を読むうち、自分を取り戻すほっとする安らぎの時間になり、がみがみ母さんの罪滅ぼしタイムになっていたような気がします。

その子どもたちも中学生や高校生になり、本棚に溢れている絵本ももう出番がなくなりました。ある時、まだ小さい姪たちに絵本をあげようと本棚から抜き出していると、娘が飛んできて「えー、それだめ、その本やらないで」と私の手から絵本を取り上げて本棚に戻すのでした。どれも角がすり切れて古びていましたが、毎夜読んで貰った絵本たちは、娘にとって幼い日の思い出が詰まった大切な財産だったのでしょか。娘たちも母親になりました。昔の絵本がまた登場し、毎夜両脇に息子たちを寝せながら読み聞かせをしています。形まで同じです。自分が育てられたように子育てをする、という言葉思い出します。

椋 鳩十（むく はとじゅう）氏が「二十分間親子読書」を提唱したのは今から五十年以上前。「子どもが本を読むのを聞いて一緒に読書を楽しみましょう」というものでした。テレビが普及し始めた頃です。時代が進み、いま、「親子読書」の大切さがさらに切実な意味合いを持ってきているような気がします。

子どもたちの生活の周辺には、テレビやゲームの映像文化が溢れ、ネットやケータイなど電子機器に囲まれ、身も心も時間に奪われている現実があります。子育てがいっそう難しい時代ではないでしょうか。このようなデジタル時代だからこそ、父や母が生の声で、素朴に語る物語の空想世界に浸る読み聞かせがとても貴重なことに思われるのです。本を真ん中にして親子のコミュニケーションも弾みます。

国際的な学力調査（PISA）で、本をよく読む生徒は読まない生徒の「読解力」の平均点数と比べて二十五点以上高いことがわかりました。読書習慣が文章を読み解く力と密接に関係しているのです。家庭で読み聞かせをしてもらった子どもは、読んで貰わなかった子どもより、読書への興味は約三十ポイント、学校の授業の楽しさは約二十ポイント高いという調査結果もあります。

日々慌ただしく過ぎていき、子どもが育つ時間はあっという間です。自分の子ども時代を振り返っても何と短い限定期間であったことか。けんかをしたり、叱られたりいろいろあっても、親子で絵本に浸る時間は優しく気持ちを解きほぐしてくれます。親子一緒に本の世界で遊ぶうれしさ…。読み聞かせは「愛の時間」なのです。一日、わずか二十分だけでも親子で本を楽しんでみてはいかがでしょうか。

||

=